

## 事業実績書

1 事業名 水害は「逃げるが勝ち！」

2 実施期間 令和4年4月13日～令和5年3月31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

西日本豪雨災害を経験した川辺地区を中心とした真備町の住民が防災減災について考える場を作り、つながりや助け合いの関係性を築きながら防災力向上を目指す。

また、事業を進めていく中で学んだことやノウハウを県内外の方にも伝え、防災に強いまちづくりを目指す。

② 事業の流れ等

ア. 川辺防災アンケートの実施

【目的】

- ・ 令和2年度に行ったアンケートから2年がたち、住民の防災の変化などを把握し、今後の地域防災活動の指針とするために実施。
- ・ 住民がアンケートに答えることによって、防災について考えるきっかけ作りになるようにする。

【時期】

- ・ 調査期間 2022年5月9日～31日/結果報告 2022年6月5日/結果郵送 2022年8月29日郵便局持ち込み

【対象】

- ・ 川辺地区に住む1383世帯

【方法・内容】

- ・ 香川大学准教授 磯打千雅子先生や国交省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所、福祉事業所、災害支援団体・防災士、川辺地区まちづくり推進協議会などと構成される川辺みらいミーティング実行委員会でアンケート内容を精査。配達地域指定にて郵送配布した。アンケートの集計については、香川大学磯打研究室の学生が協力。防災フェス内で結果発表を行った。
- ・ アンケート結果を分かりやすくまとめたものを川辺地区住民に郵送した。

【結果】

- ・ 被災経験のない住民が約1割もいることがわかり、川辺地区に住むすべての人と共に歩む地域防災の進め方について改めて考えていく必要性を感じた。避難に配慮が必要な人については、半数を超えている。しかし、黄色いタスキ大作戦の取組の成果からか、避難時に声掛けをしようと考えている人は7割を超える結果となり、共助の大切さを感じている人が多いことが分かった。その一方、具体的に避難先を決めることができていなかったり、避難の準備が不十分と感じ

ていたりする住民も多く、これからの取組の参考としていきたい。（アンケートの詳細な結果は別紙参照）

#### イ. 川辺みらいミーティング

##### ○ 第9回（黄色いタスキ安否確認訓練・防災フェス・安否確認訓練と防災アンケートの結果報告会他）

###### 【目的】

- ・ 昨年行った黄色いタスキを活用した安否確認訓練を今年度も行うことで、黄色いタスキ大作戦の定着と有事の際にタスキを活用しスムーズな避難のために活用できるようにする。黄色いタスキの活用方法について、家族や地域で話題にし、訓練に参加することで、防災意識の向上とつながりの強化を目指す。各町内会への緊急連絡訓練も同時に行い、より実践的な訓練となるようにする。訓練の結果は当日の午後に開催の防災フェスにて行い、課題の洗い出しと今後について考える場となるようにする。
- ・ 防災フェスは、楽しく学ぶことができる体験型防災研修とすることで、子どもから大人まで参加できるものにする。
- ・ 行政（国・県・市）・NPO・企業・福祉・消防団・地域が協働して行うことで、災害に強い町を目指す。

###### 【開催日時】

・ 2022年6月5日（日） 黄色いタスキ安否確認訓練 9:00～ 防災フェス 13:00～16:00

###### 【対象】

- ・ 川辺地区住民及び、興味のある方

###### 【内容】

別紙チラシ参照

###### 【結果】

- ・ 黄色いタスキの安否訓練については、緊急連絡訓練を初めて行うことができ、町内会加入世帯の参加も昨年の 77.5%を超える 78.8%の住民が参加した。町内会活動も徐々に再開され、つながりの結い直しができつつあるが、町内会未加入世帯については、昨年の 39.3%を下回る 33.3%となった。取組の周知徹底や今後の情報提供の方法も工夫が必要になってくると考える。
- ・ 防災フェスでは、子どもから大人までおよそ 185 名の参加となった。段ボールベッドの組み立て体験や災害救助犬のデモンストレーション、マンホールトイレの展示など、普段見たり、経験したりできないものも多数あり、楽しみながら学ぶ機会となった。その中で、訓練結果やアンケート結果の報告も行うことで、多くの方と川辺地区の現状を共有することができた。
- ・ 川辺復興プロジェクトあるくは、町内会未加入世帯などいざという時の情報が届きにくいという課題に対して、LINE グループ「川辺地区みんなの会」に参加してもらえるようにコーナーを設け、直接顔の見える関係の中で安心して操作、参加してもらうことができた。

○ 第10回（防災検討チームメンバー公募説明会）

【目的】

- ・ 災害後から、「出来る人ができることを」のコンセプトで進めてきた防災の取組を、地区防災計画策定に向けて改めて新体制で取組、より具体的に進めていくことができるよう、住民のみなさんに今までの経緯とこれからの考え方をお知らせする。
- ・ クロスロードゲームをすることによって、実際の避難時の対応について考えたり、グループ内で意見を出し合ったりする中で、考えのすり合わせをしコミュニケーションを深め、今後の取組の下準備をしていく。
- ・ 香川大学准教授 磯打千雅子氏から地区防災計画についてご説明いただき、地区防災計画の役割などを知る。

【開催日】

- ・ 11月27日（日）

【対象】

- ・ 川辺地区在住、在勤の方・協力団体・地区内の企業・地域防災に興味がある方

【結果】

- ・ 50名ほどの参加者が集まり、川辺地区のこれからの防災について考えることができた。今回からは、地区内の企業にも40社程度お声がけをし、地域とのつながりを作っていた。災害時に協力し合うことができる仲間と緩やかにつながり、多様な人と地域防災の体制づくりを進める体制が整いつつある。
- ・ クロスロードゲームでは災害支援団体PWJから、実際の災害現場の様子などもお話しいただきながら、実際の避難や災害後の対応について、思いを共有することができた。リアルに災害をイメージしながら、防災の取組を進める大切さも再確認できた。
- ・ 磯打先生からは、川辺地区の強みをいかした地区防災計画についてのヒントを分かりやすくお話いただき、これから目指す先について、考えることができた。
- ・ 国土交通省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所長 濱田さんより、河川工事の状況についてご説明いただき、アウトドア専門店「モンベル」さんには防災用品の展示をしていただいた。また、香川大学の学生さんが、ファシリテーターとしてお手伝いしていただき、今回もさまざまな方に関わっていただきながら、開催することができた。

○ 第11回（チーム結成会）

【目的】

- ・ チームへの参加意思のある方を対象に、どんな町に住みたいのか、どんな取組をしたいのかの意見出しをし、これからの目標や地区防災計画に盛り込む内容について検討する。

【開催日】

- ・ 2月19日（日）

【対象】

- ・ 川辺地区在住・在勤者および興味のある方

【結果】

- ・ グループワークでは、それぞれのテーブルごとに西日本豪雨災害時の困りごとや課題を出し合ったり、今後取組んでみたいことを意見出ししたりすることができた。同じような思いや考えをする人がいることを知れたり、新たな考えに触れたりすることもでき、地域力の向上に向けて、大切な時間となった。
- ・ たくさんの貴重な意見が集まった。今後の進め方や地区防災計画の内容などを考えていく上で大切な指針とすることができる。
- ・ 今後は、第1日曜日の午前中に定例会として会を重ねていき、地区防災計画書の作成を目指す。

#### ○川辺みらいミーティング「防災おしゃべり会」

##### 【目的】

- ・ 誰一人取り残さない防災の取組を目指すために、2月19日の会に出席できなかった方にも「川辺防災の今」を伝えるための機会をつくり、チームメンバーの防災意識の差をできるだけ縮める。また、川辺みらいミーティングは週末の昼間開催だが、平日夜の方が都合のいい方に合わせた開催日時を設定し、オンラインでも参加できるようにする。

##### 【開催日】

- ・ 3月16日(木)毎月第3木曜日

##### 【対象者】

- ・ 川辺地区在住・在勤者と興味のある方

##### 【結果】

- ・ 川辺ぼうさいチームメンバーの中でも意識の高い方や企業、行政、NPO 団体など様々な方が集まり、会話をすることができた。
- ・ 大勢で集まる会とは違い、人数が少ないことで、防災についてどのように考えているのかをじっくり話すことができ、お互いを理解しあったり、つながりを深めたりする機会となった。このような時間は、思いをすり合わせながら地域防災を進めていく重要性からも考えて、大切な会であると再認識し、今後も定期的に開催していくこととする。

#### ウ. 防災カフェ

##### ○「LINE を使ってみよう会」

##### 【目的】

- ・ 少人数で学ぶ場を設け、防災をより身近に感じながら意識と知識を高める。
- ・ 有事の際の情報共有の際に便利な LINE に慣れておくための会を行う。また、使い方を参加者同士でも教え合うことにより、つながり作りの一環とする。

##### 【開催日】

- ・ 5月11日(水) (NHK スペシャル取材)

##### 【対象】

- ・ 真備町在住他

##### 【結果】

- ・ 参加者同士の会話も弾み、和やかな会となった。LINE を使えるようになったこ

とで、古い友人とのつながりができたり、LINE グループに参加できたりする参加者もいた。

- ・ 災害時の情報不足による不安の軽減や支援の抜け落ちを防ぐためにもとても大切な取組であると感じた。

#### ○防災アプリで避難計画（デジタルマイタイムライン）

##### 【目的】

- ・ 防災アプリを活用し、いかなる時にでも携帯するスマートフォンで避難行動を確認しながら、より安全な避難ができるようにしておく。
- ・ スマートフォンで避難時や災害時に必要な情報をえられるようになる。
- ・ 参加者から家族や地域でも活用していただき、早期避難につなげる。

##### 【開催日】

- ・ 11月10日（木）

##### 【対象】

興味のある方

##### 【結果】

- ・ 国土交通省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所と Yahoo! ジャパンとの共同開催をすることができた。被災経験のある参加者から、実際の避難時を想定しながら改善点も提案することができた。
- ・ アプリ上でマイタイムラインを作成することで、実際のときにはポップアップで行動を知らせてくれたり、必要な情報が入ってきたりする点など有用性を感じた。今後も、様々な情報の得方や避難のハードルを下げるためのきっかけ作りをしていきたいと思う。

#### ○避難所運営ゲーム HUG

##### 【目的】

- ・ 災害支援のNPOである、ピースウィンズ・ジャパンの橋本さんを講師にお迎えして、メディアでは伝わってこない、現地に支援に入られたからこその実体験をもとに、大きな地震が起きた時の対応について考える。
- ・ 川辺地区には、地震発生時の指定避難所はあるが地域としての運営については、マニュアルなどの取り決めもない状態であるので、避難所運営について話し合うきっかけをつくる。

##### 【開催日】

- ・ 11月19日（土）

##### 【対象】

- ・ 避難所運営に関心がある方

##### 【結果】

- ・ 災害の種類によって、また、その時の天候によっても対応が違うため、スムーズに避難者を受け入れることができる体制づくりを考えておく必要性を感じた。
- ・ 実際の避難所運営についてイメージすることができ、地区防災計画の策定の重要性を再確認することができた。

## エ. キッズ防災

### ○くらしきジュニア防災リーダー養成講座

#### 【目的】

- ・ 楽しく学ぶことができる機会を作り、自分の命を守るための知恵を身に付け
- ・ 倉敷の災害の歴史や地形などを知り、地域の災害リスクや環境に合わせての防災対策が必要であることを知る。

#### 【プログラムの目標】

##### <児童・生徒>

- ・ 自分のみならず家族や友だち、地域の人を災害から守ることの大切さを感じ、避難時や災害時の思いやりや、助け合いの大切さを再認識する。
- ・ 学んだこと感じたことをもとに、行動に移す機会となるようにする。

##### <家庭・地域社会>

- ・ 学校や地域、家庭において、参加者が学んだり、行動したりしたことを十分に認め、参加者の思いを尊重できる環境を作る。

#### 【開催日】3日連続講座

- ・ 8月20日（土）10:00～15:30
- ・ 8月21日（日）8:00～18:00
- ・ 9月3日（土）9:30～15:30

#### 【対象】

- ・ 募集対象：倉敷市内在住の小学5年生（約4800人）
- ・ 参加者9名

#### 【内容】

- ・ 別紙参照

#### 【結果】

- ・ コロナの感染状況を心配して参加者が少ないうえにキャンセルもあった。感染症対策のマニュアルを作成し、保護者にも内容を共有して開催した。
- ・ 大学生・防災の専門家・災害支援団体・元校長など多様な講師やスタッフと協働で行うことができた。また、倉敷市や倉敷市教育委員会にも後援していただくことで、学校へのアプローチや連絡など密に行うことができた。
- ・ 受講した子どもたちが目を輝かせながら生き生きと学ぶ姿が見られ、最終日には次回の講座の開講を希望する子どももいた。
- ・ 3日目には、防災リーダーとして防災の重要性を伝えようとしたり、率先避難や備蓄品の見直しをしようとしたりなど、自分にできることから行動しようとする気持ちを言葉にするようになり、防災意識と知識の向上につながった。
- ・ 振り返りシートや宿題は一人一人に香川大学の学生が丁寧にメッセージを書き込み、学びを深めたり、頑張りを十分認めたりすることができた。また、他団体の協力で、認定証や認定キーホルダーを贈呈できたことで、子どもたちの達成感や防災に対する主体性が養われたと感じている。

### ○まなぼうさい

#### 【目的】

- ・ 川辺地区まちづくり推進協議会と放課後子ども教室と協働開催した。地域の人から防災について学ぶことで、地域性を踏まえた備えについて伝えるとともに、世代を超えたつながりを深めていく。
- ・ 子どもたちの防災知識を深め、災害が発生しても生き抜くための知恵を身に付ける。

**【対象】**

- ・ 地域の小学生

**【結果】**

- ・ 防災〇×クイズでは、中学3年生のあるくメンバーが出題し、顔見知りの子どものいる中で、楽しい雰囲気の中で学ぶことができた。正解率が高く、答えに迷いがないことから、防災に対する知識が身につけていると感じた。
- ・ 持ち出し品を考える手作りゲームでは、持ち出しできるものが限られた中で、何を優先するかしっかりと考えたり、どうしてそういったものを持ちだしたいのかを話したりして、自分以外の考えを知ることができた。
- ・ 新聞紙でお皿を作り、非常食を食べる時間には、実際に体感することで、改めてどのように備えておくのか（好きな食べ物を用意しておく。避難中に困らないように準備する。など）をそれぞれ真剣に考えることができた。

○ 川辺小学校3年生、5年生に向けて災害後や防災の取組についての講演

**【目的】**

- ・ 昨年度から小学校の先生から依頼され、お話をさせていただいている。転勤などで、被災当時のことが十分に分からない先生方が、被災した子どもたちに配慮した防災教育を進めていくことの難しさを抱えている。被災した地域住民の取組から学び、自分たちも地域の一員として考えるきっかけをもてるようにする。

**【対象】**

- ・ 川辺小学校3年生、5年生

**【開催日】**

- ・ 10月25日（火） 11月18日（火）

**【結果】**

- ・ あるくの取組について、自分の経験と照らし合わせながら話を聞き、榎原からの問いかけに積極的に反応し、質問もたくさんしてくれた。あるくの取組について断片的ではあるが、自分の経験と照らし合わせながら話を聞き、子どもたちと共に災害から命を守ることを考えたり、地域での活動について理解したりすることができ、とても貴重な時間となった。
- ・ 後日、子どもたちが学んだ内容の発表会に招待していただいたり、お礼のお手紙をいただいたりした。これらも、子どもたちと共に歩んでいける川辺地区でありたいと思う。

オ. 防災おやこ手帳の発送

**【目的】**

- ・ 西日本豪雨災害の教訓を分かりやすく伝え、家庭での防災意識の向上と備えにつながるようにする。

**【対象】**

- ・ 必要とされる方

**【結果】**

- ・ NHK スペシャルで紹介されたことや講演活動の増加に伴い、今年度も多くの手帳を全国に郵送している。防災の取組への応援や防災おやこ手帳の増刷のためにと寄付金をくださる方もいる。
- ・ たくさんの方に注目していただいている一方で、防災おやこ手帳の内容を編集して配布したいとの問い合わせも数件ある。被災者や私たちの思いが歪むことなく手に取った方に伝えるために、転載や複製に対する注意書きを手帳に追記した。

カ. 防災啓発活動

**【目的】**

- ・ 被災経験や岡山県備中県民局提案型協働事業で行ってきた防災活動のノウハウを多くの方に伝え、県内外の方の主に水害に対する備えのきっかけとなるようにする。

**【内容】**

- テレビ、ラジオ、新聞、インターネット記事（24回）・書籍寄稿（8回）・講演（48回）など

※詳細は啓発活動報告書を参照

- 12月4日 川辺地区もちつき大会にて防災アンケート

川辺地区まちづくり推進協議会の防災班と協働で参加者に防災に関する質問をし、今後の防災の取組の指針にするとともに、参加者の防災意識の向上を図るもの。倉敷市から防災食と保存水の提供をいただき、備えのきっかけにもなった。

※アンケート結果については、活動報告書を参照

- まびいきいきプラザ主催防災ベント展示・鳥取県・こくみん共済・くらしき防災士の会による防災ベントでの展示と講演

**【目的】**

- ・ 西日本豪雨災害の被災状況や川辺復興プロジェクトあるく取組、地域防災などを紹介する展示を行うことで、防災意識の向上を目指す。

**【内容】**

- ・ 被災状況の写真展示・防災おやこ手帳の内容説明・日常使いの防災食を考えるコーナーなど。
- ・ くらしき防災士の会主催のイベントには、西日本豪雨災害の被災状況やその後の防災の取組がわかりやすいパネルを作成し展示した。

**【結果】**

- ・ 防災講演会には参加が難しい、子育て世代の方が足を止めて見てくださったり、



説明を聞いてくださったりした。子育て世代の防災意識が低いのではとよく言われるが、気になっていても防災について触れる機会が少ないのかもしれないと思った。子どもたちも楽しみながら学べる、親子参加型の防災コーナーなどこれからも工夫していくことが重要だと感じた。

### ③ 成果・効果

- 川辺地区内だけにとどまらず、広い地域に向けた事業を意識しながら進めることができたと考えている。私たちの西日本豪雨災害の後悔と学びを無駄にせず、次に来る災害に備えるきっかけ作りや具体的な行動を促す場を提供できた。
- 子どもたちへの防災教育の大切さについては、防災意識が低いと言われている子育て世代も理解している人が一定数いると感じている。家庭や学校だけでは学ぶことができない部分を私たちが担い、楽しさを含んだ学びの場を提供することができた。
- 地域防災においては、新たに地域の企業や在勤者を巻き込む体制づくりが進んでいる。災害発生時には、すべての資源を活用し、みんなで生き延びてくための大切な視点として、他地域にも必要性を伝えていきたいと考えている。新たな参加者を増やしたことで、地区防災計画の骨子はもう少し時間をかけ、じっくりと作り上げることにした。
- 黄色いタスキの導入支援については、残念ながら行うことができなかった。しかし、県外の自治会や町内会では黄色いタスキを導入しているケースがたくさんあり、15団体 7340枚が配布されている。私たちの取組が多く地域でいかされている。

⑪今年度の 成果目標と 評価指標	成果目標 1 災害後より進めてきた地域防災のノウハウをまとめ、地区防災計画の骨子案を作成することにより、地域防災力の向上を目指す。			
	評価指標・測定方法	数値目標		
		当初	今年度	実績
	地区防災計画骨子案の完成	なし	1地区	骨子案作成に向け、より幅広い関係者で検討するため、公募により川辺防災チームを結成した
成果目標 2 平成30年西日本豪雨の教訓を多くの人に伝え、防災意識の向上を目指す。				
	評価指標・測定方法	数値目標		
		当初	今年度	実績
防災おやこ手帳の第1弾・第2弾を必要とする人に向けて配布する。また、講演会で教材として配布する。	約15,500部	第1弾・第2弾の合計配布数25,000冊	合計46,148冊	

成果目標 3			
黄色いタスキを活用した安否確認の仕組みの普及			
評価指標・測定方法	数値目標		
	当初	今年度	実績
黄色いタスキを活用した安否確認訓練の参加率	65.8%	70%	63.3%
他地区の黄色いタスキ導入支援	県外に1地区	備中地域内に2地区導入	問い合わせのみ

④ 今後の課題・展開等

- ・今年度も県民局提案型協働事業により、たくさんの事業を行うことができた。活動を進める中で、取組むべきことやチャレンジしたいことなどが出てくるが、計画運営の負担も大きくなる。今まで以上に、内容ややり方など精査しながら、今までの経験を活かして取組を続けていきたい。
- ・活動費用については、様々な団体と協働したり、参加者から実費をいただいたりして確保していきたいと考えている。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

- ・県民局の後押しの元、充実した事業を進めることができたと考えている。
- ・黄色いタスキの導入支援については、関係各所にご紹介していただいたにもかかわらず、残念ながら実際の支援に結びつくことがなかった。

4 参考事項・資料

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

# 令和4年度活動報告 (2022年度)

～防災減災に関わる事業～

川辺復興プロジェクトあるく

## 【活動内容】

- 1・川辺みらいミーティング
- 2・防災カフェ
- 3・キッズ防災
- 4・川辺地区や当団体のノウハウを活かした  
防災啓発や防災意識の向上につながる事業



6/5開催予定の「体験型防災フェスの案内、黄色いタスキ安否確認訓練のお知らせと川辺地区防災アンケート」を同封し、川辺地区**1383世帯**に配達地域指定で送付した。

【アンケートの目的】

被災から4年を前に、住民の防災に対する意識の変化や備えについてなど、今後の地域防災の指針となるよう現状を把握すること。

そして、体験型防災フェスの案内なども一緒に配達地域指定にすることで、地域の情報が届きにくい町内会未加入世帯にも届けられるようにした。同じ地域に住む全員を対象として「逃げ遅れゼロ」を目指す活動としていきたい。

また、ボランティア募集に対してのチラシも同封し「被災後多くのみなさんから受けた支援に少しでも応えられるなら」「町内会未加入者にポスティングならお手伝い可能」との回答する人もあった。これらの言葉から、少しずつではあるが地域の防災を考える中でつながりが大切であり、自分事に捉えられるようになったと感じられる。

黄色いタスキ大作戦結果報告・防災アンケート結果報告(8月)

川辺地区にお住いのみなさまへ  
川辺地区防災アンケート・黄色いタスキ訓練について（お礼）  
差し支えが続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。ご協力いただきありがとうございます。  
5月に川辺地区の住民に地域防災を推進する各家庭にお届けした「川辺防災アンケート」を1383世帯に届けたところ、1188名のご回答をいただきました。  
6月に予定した「黄色いタスキ安否確認訓練」に多くの方のご協力、約8割の方が黄色いタスキを準備し参加し、訓練終了後には「防災フェス」を開催。実際に、どのくらい防災意識が高まったかを確かめるべく、「自動」を「手動」に設定した防災訓練の地域全体での取り組みが重要かと思えます。これからは、災害に備えたいという気持ち、歩みを止めることなく取り組んでいきたいと思えます。  
さて、皆様にご協力いただいた川辺防災アンケートの結果と黄色いタスキ訓練の結果をお届けいたします。防災フェスを行った緊急避難訓練もYouTubeでご覧いただけます。ぜひご覧ください。このお礼状や動画をもとに、改めてご家庭や地域で防災について考えるきっかけになれば幸いです。  
川辺地区まちづくり推進協議会 会長 斎藤良子  
川辺みらいミーティング実行委員会 委員長 松本孝己  
川辺復興プロジェクト 代表 橋本敬典  
動画はこちらから  
YouTubeチャンネルに載ります  
https://youtu.be/uR9Uw6Dkc

「川辺防災アンケート結果」1383世帯中518件の回答があった。今回のアンケートで得られた結果から見たことは、被災後に真備以外から川辺地区に新たに入居した人が回答者の8.3%あり、被災経験のない人に情報を伝える方法を考える必要がある。

「黄色いタスキ」は、目に見えるつながりを感じられるものとして、今後も訓練を重ねていくことが大切である。

回答者の7.3%が、いざという時つながりの大切さを感じている。

しかし、被災経験をしていても、いざという時の避難準備ができていないことも明らかになっている。

今後も、引き続き関係諸団体と協力し地域の防災に向けて取り組みを進めていく必要があると考えている。

このようにアンケート結果と黄色いタスキ大作戦の取り組みについてまとめたものを**1561世帯**配達地域指定で郵送した。



「黄色いタスキ」への取り組み ～逃げ遅れを無くしたい強い思いが多くの参加に！～

Timeline of activities from 2018 to 2022. It includes details about disaster preparedness training, the 'Yellow Apron Big Battle' (結果65.8%), and the 'Yellow Apron Big Battle' (結果63.3%). It also mentions the distribution of disaster preparedness materials to 1561 households.

Summary of survey results. It highlights key points: (1) New residents from outside the area participated in the survey. (2) Many respondents are aware of the importance of community support. (3) Many households are aware of the importance of disaster preparedness. (4) Many households are still aware of the importance of disaster preparedness. It includes several pie charts showing the distribution of responses.

## 6/5黄色いタスキによる安否確認訓練



黄色いタスキ大作戦

2022年6月5日(日) 9:00～16:00

「黄色いタスキ」を掲げた実数に気づける。

黄色いタスキを掲げている軒数を数えます。

「黄色いタスキ」を掲げない方はご連絡ください。



令和4年度岡山県備中県民局提案型協働事業

第9回 川辺みらいミーティング

黄色いタスキ訓練

川辺防災アンケート結果報告

昨年に続き、出水期を前に黄色いタスキ大作戦の訓練を行った。町内会の代表、町内会未加入世帯には民生委員などが手分けをして、タスキの掲げてある数を数え集計した。

午後からの「みらいミーティング」において、訓練の結果とアンケート結果の報告を行った。

(黄色いタスキ大作戦 結果)

2021年 65.8% (加入世帯77.5% 未加入世帯39.3%)

2022年 63.3% (加入世帯78.5% 未加入世帯29.5%)

今年は、町内会単位での取り組みとして、声掛けや連絡を取り合う方法を考えて実践した所があり、黄色いタスキ大作戦の「地域の一体感」を感じられた。また、新たに移住してこられた方からの「黄色いタスキをください」との連絡に手分けをして説明と配布も行った。これらの取り組みなどから、全体の結果では、やや減少したように見えるが町内会加入世帯では増加している。今後も細やかな取り組みを継続することで、地域のつながりを深め訓練だけではなく「いざという時、災害が発生した時」に声をかけ合えるきっかけとしての「黄色いタスキ」を使えるようになっていきたい。継続した取り組みが必要であると改めて感じた。

(課題・参加者の声)

・町内会未加入世帯(アパートなど)地域の情報が伝わりにくい人達との防災への取り組みについて誰がどのようにかかわることができるか。

・住民が黄色いタスキを掲げる時期とか意味をもっときちんと共有しておく必要があるのではないかな。

・逃げ遅れゼロを目指すには自助(まずは自分、ご近所)が大事であり、各町内会や家庭の中でも話し合いをしていく必要がある。

# 第9回 川辺みらいミーティング

## 体験型 防災フェス

—黄色いタスキ大作戦—



昨年度開催できなかった「体験型防災フェス」防災・備えのヒントになるように県内外からの企業や団体に出展協力してもらい多世代にわたる参加者があった。協働の県民局からは沢山の防災関連の資料の展示、倉敷市からは地震の避難所開設に必要な備蓄倉庫の開示やマンホールトイレの開設についての説明。備えのヒントに、「一般社団法人epoおかやま笑顔プロジェクト村上浩司（以下笑顔プロジェクト）」から、備蓄品や非常持ち出し品と民間救急車の展示。「特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン（以下PWJ）」は、災害救助犬のデモンストレーションや段ボールベッド作りの体験。クレストビークルからは、車中泊の参考にキャンピングカーの展示。古河電工からは空気清浄機などの展示。など、他にも展示ブースがあり、おすすめの防災食をセットで購入できるコーナー「MTネット」では直接話を聞いて自分の好みに合わせて購入することができて備えのチャンスになった。

また、今年度は、防災を考える日として、地域の各種団体の協力もあり、消防団は消防車の展示、午前中は小学校PTAが中心となり「防災クイズ・ウォークラリー」を開催し各ポイントでは地域の人から水害の歴史などのクイズに答えるというように、地域一体となる活動を行うことができた。終了後防災フェスに立ち寄れるなど地域全体が参加しやすい環境で広い世代での参加があった。特に、子どもたちが積極的に段ボールベッドを組み立てているところは、楽しみながらではあるが、いざという時の避難所運営の担い手となる可能性を垣間見ることができた。

町内会未加入世帯や高齢者に、いざという時の情報収集が届きにくいという課題に対して、LINEグループ「川地区みんなの会」に参加してもらえるようにコーナーを設け、あるくが担当し、直接顔の見える関係の中で安心して操作をしてもらうことができた。

参加人数 185人



【内容】

○クロスロードゲーム  
避難時の対応について  
色々なシチュエーションを  
考えてみる ゲーム

○地区防災計画とは  
香川大学准教授  
磯打千雅子先生  
からの説明

○これからの川辺防災について  
川辺みらいミーティング実行委員長より

参加者数50名



11/27 【「防災研修会」と「これからの川辺防災」】

スタッフを含め約50名が集まり、川辺地区の防災について思いを巡らせた。  
この参加者の中には、住民だけでなく、そこで働く方達も一緒に考えていきたいとの思いで川辺地区の企業、団体にも案内をし参加してもらった。

まずは、川辺地区まちづくり推進協議会 会長の加藤良子さんのご挨拶から始まった。  
PWJの橋本笙子さんには、クロスロードゲームをしていただき、実際に災害が起きそうな時、起きてしまった時、さまざまな判断をしなければならぬことを自覚する内容となった。  
自分の考えを述べるだけでなく、グループの他の方の考えに触れることは、とても勉強になったのではないかと。

香川大学 磯打千雅子先生からは、「みんなで取り組む防災のこころ地区防災計画とは一」と題して、地区防災計画を分かりやすくご説明いただき、そして、川辺の強みも教えていただいた。

最後には、川辺みらいミーティング実行委員長 松本竜巳さんより、これからの川辺防災について提案した。

冒頭では、国交省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 所長 濱田さんよりドローン映像で河川工事のご説明。

会場では、アウトドア専門店「モンベル」さんの防災用品の展示もしてもらい、香川大学の学生さんには、ファシリテーターとして、グループワークを支えてもらった。

クロスロードゲームでは、災害を経験した私たちだからこそ「今度は家族できちんと話し合っておく必要がある」「地域での取り組みも重要だと思う」「家族とは決めごとをしているから、目の前の困っている人には声をかけて手助けをしたい、できると思う」など、出てくる発言があった。

これからの川辺防災について考えるチームとしても参加表明をしていただけるなど、意見を出し合い日頃の顔の見える関係づくりの中から防災活動を進めていく予定である。

西日本豪雨を経験し、一旦バラバラになった住民が地域の復興に向けて、課題を出し合い議論を重ねて「逃げ遅れゼロ」の取り組みをしてきた。

5年目を迎え、取り組みをしてきたことをまとめ、地域住民と共有し新しいステージに進み、「できる人ができることを」の視点から、「川辺防災チーム」を結成し進めていくことになった。

防災の取り組みの上では、「自主防災組織」という言葉が主流となるところではあるが「地域防災はみんなで育てていくもの」「チームで助け合い連携しながら行うもの」と考え、「チームの結成」に結びついた。

川辺地区にある企業のみなさんや、関りのある行政、団体にも声をかけご協力いただきながら、進めていくことになる。参加30人（参加者は固定はしないので流動的）

《取り組み内容》

◇ グループ内で自己紹介

◇ 地域の活動紹介：小学校5年生がまち歩きをした結果をまとめたビデオを共有した。

川辺の歴史を学び、香川大学磯打先生、学生さんと一緒に実際に歩き子どもたちの視点で防災減災に向けた課題を提案する内容であった。

◇ これからのチームの進め方のイメージを共有した。

◇ グループワーク①

・自分たちはどんなまちに住み続けたい？

◇ グループワーク②

・お互いの困りごとや被災当初の思いを踏まえた課題

・生活の中での困りごと・課題

・防災減災に向けた活動・楽しくできる活動は？

など意見を出し合い、今後毎月定例会を開催し、「おしゃべり会」として、定例会に来られない人に対し、共有の時間を設けるなど令和6年に地区防災計画の指針が出せるよう進めていく。







昨年度に引き続き、川辺地区まちづくり推進協議会を中心とした地域のイベントに防災アンケートのコーナーで参加。

まちづくり協議会の防災班との共同で「防災意識の確認」「備えについて」確認し、今後の川辺の防災を考える指針として、現状、備えについてアンケートを行った。

- ・高梁川が決壊したら5メートル以上家の2階の屋根まで浸水することを知っているか？  
はい R3(54) R4(65) いいえ R3(10) R4(2)
- ・マイ避難先を決めているか はい R3(54) R4(49) いいえ R3(10) R4(27)
- ・災害が起きた時に気になる事  
要配慮者がいる R3(18) R4(14)  
持ち出し品 R3(28) R4(24)  
避難について R3(29) R4(30)  
ペットが居る事 R3(1) R4(16)

昨年と比べ、回答者が少ないが、結果は災害のリスクがある事は理解している人がほとんどであるにもかかわらず、マイ避難先を決めている人の数が**半数以上決めていない**と答えている事。備えについては、避難についてが一番多く回答があり、依然決められない迷っている様子が見られる。持ち出し品の事、要配慮者がいる事が昨年同様気になっているようだ。ペットが居ることと回答した人が昨年より増えている事など、被災後の生活が落ち着きペットを飼い始めた人も多くなったか？

このように、課題が見え、今後の地区防災計画策定に向けた参考となる結果となった。今後の活動に活かしていきたい。

## ② 防災カフェ(毎月1回程度)

防災を身近に感じ、楽しく会話をしたり、お茶を飲んだりしながら防災を我が事として考える場として「防災カフェ」を毎月開催することを予定していたがコロナ感染対策のため開催できない月もあった。

月1回程度の開催を目指しているが、コロナ感染拡大が急増していることで、防災食など工夫して実際に作って食べてみるという内容はなかなかできず開催できずにいる。何かのイベントで簡単なことから開催を目指していきたいと考えている。

5/11 LINEを使ってみよう 講師(あるスタッフ) 参加者数3人 補助スタッフ2人



今回のテーマは「友達追加」「友達にメッセージを送ろう」で、LINEの使い方を楽しく学びました。初めての参加者もあり、お一人は、LINEを使っているが「お友達追加とグループLINEを作りたい！」と「時々息子や家族に尋ねるが操作してくれるから覚えられなくて、すごく悔しい思いをしていたんよ」と、一緒にやってみると「自分で操作できたから、帰ったらやってみる！」と帰られました。後日「今日、3人で集まって習った方法でLINE登録することができました！」と返事がありました。「質問したいこと、知りたいこと、できなかったことが解決できて、勉強になって一時間があったという間で楽しかった」と実際に使えるようになることは、情報を簡単に取り入れることができたり、繋がりが増えることにつながる。次は「川辺地区みんなの会」のLINEに入れるように開催をしたい。

6/5 「川辺地区みんなの会」のLINEに参加しよう！

防災フェスのコーナーに7人参加された。

身近な人とつながることができ大切な「いざという時の地域の情報」を取り入れたり共有することができる。改めて、避難のこと、防災について考える大切な機会となった。

# 11/19 防災カフェ「避難所運営ゲーム」HUG開催

**《防災カフェ》**  
**地震が発生した場合、川辺小学校が避難所として開設されます。避難所運営のことみんなで考えてみませんか？**  
令和4年度岡山県備中県民局提案型協働事業

開催日：11月19日（土）  
場所：川辺分館  
受付：9:30～  
時間：10:00～12:00  
対象：避難所運営関心がある方  
定員：40名  
参加費：無料

《講師》  
橋本 圭子氏

《講師紹介》  
特定非営利活動法人  
ピースウィンズ・ジャパン  
国内事業部長

約25年、国際協力NGOで国内外の災害被災者支援に携わる。特に東日本大震災以降は主に国内での災害被災者支援に注力してきた。2児の子育てを終え、現在は認知症の養母の介護をしながら、災害対応、防災減災事業に従事している。

**HUG**  
避難所運営ゲーム网上訓練  
体験会 開催！

お問い合わせ  
080-5752-0111（あるく）

メール：  
aruku.2018.10.18@gmail.com  
主催：川辺復興プロジェクトあるく  
協力：川辺地区まちづくり推進協議



参加者 13人  
講師 ZOOMと会場サポート併用

（参加者の属性）  
10歳代～70歳代、地域の各種団体に所属している人、避難所運営に興味のある一般の住民

（案内の仕方）  
防災減災の啓発を身近な所から考えるきっかけにってもらう目的として、他地域の参加者にもLINE等SNSを使って声掛けをした。  
地区の委員にも声掛けやチラシを配布し案内した。



-----切り取り線-----

(申込書) 11/19 防災カフェ 避難所運営ゲーム

お名前	
所属、お住まい 町内会など	
連絡先	

申込書は川辺分館入り口の「川辺地区まちづくり推進協議会」の木箱に入れてください。



講師には、災害地の経験をたくさん持っていらっしゃるピースウィンズ・ジャパンの橋本さんを迎えて、現地に支援に入られたからこそ見て知ったことを織り交ぜながらのお話は、大きな地震の経験がない私たちにとってとても考えさせられるものだった。

ゲームは3チームに分かれて行き、それぞれのチームで、同じような考え方をする場面や違った視点で考えている部分など、今後、川辺の防災を進めていく上で、とても大切なことを考えるきっかけとなった。

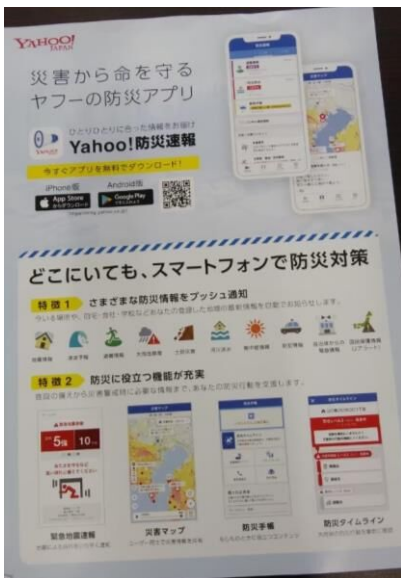
（課題）

- ・災害の種類によっては、避難者が天候の悪い中押し寄せるといことも考えられることから、スピード感をもって受付をして割り振りをするを重視する班
  - ⇒受け入れる前の設定をスタッフ間で話し合っておく必要がある
  - ⇒避難者以外のイベントや避難者に共有すべきことはメモにして掲示するなど工夫が必要
  - ⇒ペット、傷病者、発熱等の感染者疑いの方の受け入れ先や方法など事前に決めておくなど課題が見つかった。

# 11/10 防災研修 「防災アプリで避難計画（デジタル マイライン）」

水害は前もって避難をすることができる自然災害、避難時のシュミレーションができていないと、避難が遅れてしまう。どんなときにも手元にあると言っても過言ではないスマホの中に、マイタイムラインを作って、必要なタイミングで行動を知らせてくれるアプリを使ってみる講習会をした。

国土交通省/高梁川・小田川緊急治水対策事務所の方、国交省の方、防災アプリの開発者の方がお越しになって、参加者一人一人に丁寧にダウンロードから入力まで教えていただきながら挑戦！途中、難しく感じるところがありながらも、このアプリの有用性を感じた。災害時には、正しい情報を得て、その上で必要な行動をすることが命を守るための大前提日頃から自分が利用しやすい情報元（アプリやサイト、テレビやラジオなど）を利用してしておくことが大切であると感じた。



他地区からの参加もあった。  
「私たちの地域でも講座をしてもらいたい」  
「はじめは難しく無理かと思っていたが、沢山のサポートがあって、これなら多くの人が不安に思っている情報入手の方法がいつも持ち歩いているスマートフォンで取り込めるにはとても便利だと思った」  
好評であり、まだまだ、試作段階のようなので、多くの人に使ってもらえるといいと思った。



くらしきジュニア防災リーダー養成講座

3日間

ジュニア防災リーダー 養成講座

8/20(土) 8/21(日) 9/3(日)

防災の基礎知識、避難の仕方、防災グッズの作り方、防災ゲームなどを通して、防災の大切さを学びます。

倉敷市内の小学校へ5000部配布



【第1回】8/20(土) 活動発表会(3時) 会場終了

10:00 ガイダンス、くらしきジュニア防災リーダーの心構え

11:00 水害は逃げるが勝ち！防災おやこ手帳の作りかた

12:00 避難の仕方

13:00 くらしきの防災ゲーム

15:30 ゲーム対決

【第2回】8/21(日) 防災知識・避難の仕方(1) 会場終了

8:00 開会式

9:00 防災知識の学習

10:00 避難の仕方(1)

11:00 防災ゲーム

12:00 昼食

13:00 避難の仕方(2)

14:00 防災ゲーム

15:30 会場終了

【第3回】9/3(日) 活動発表会(3時) 会場終了

9:30 開会式

10:00 防災知識の学習

11:00 避難の仕方(3)

12:00 防災ゲーム

13:00 避難の仕方(4)

14:00 防災ゲーム

15:30 活動発表会

講師として香川大学先生、学生、災害支援団体、元小学校の先生、地域団体など多くの協力をいただいで開催することができた。

この講座は、西日本豪雨災害を経験した中で、子どもたちが発した言葉で避難の行動に繋がった家族も多くあった。今後、災害大国日本で生き抜くためには子どもたちへの防災教育が重要となっている。

このようなことから、子どもたちが「災害から身を守る術」を楽しく学ぶことができるように「体験・見る・学ぶ」を柱に3日間のコースを計画し、県民局をはじめ倉敷市、倉敷市教育委員会のご理解と後援をいただくことができた。

講師として香川大学先生、学生、災害支援団体、元小学校の先生、地域団体など多くの協力をいただいで開催することができた。残念ながら、コロナ感染拡大の影響もあり、参加希望12人→参加者9人となってしまったが、感染、熱中症対策をスタッフ全員で共有して開催の運びとなった。

倉敷市内の小学校へ5000部配布



(講座のねらい)

- ・講座を通して学んだことを、家族やお友達に伝える人になる。
- ・一緒に避難しよう」と声をあげられる人になれる。
- ・「くらしきジュニア防災リーダーの心得5つ通して」を講座を通して考え身に付けられる。

1日目

- ・防災おやこ手帳で「水害は逃げるが勝ち」を学ぶ・身近なもの「新聞紙、牛乳パック」使って器とスプーンを作る・倉敷の災害の歴史を学ぶ・大学生が考案した防災ゲームで楽しく防災を学ぶ

(参加者の声)

器を作るのが難しかったけどこんなやり方があることを知ることができた。家族や友達に伝えてみんなで命を守っていきたい。

★自分の命、大切な人の命を守るために行動します  
★あいさつや声掛けをして友達。家族・ご近所さんを大切にします



2日目

阪神淡路大震災の経験や教訓を紹介している「人と防災未来センター」を見学した。PWJがガイドしてくれ、地震や土砂災害の模型での実験を体験したり、災害を経験した方のお話を聞いた。持っていたメモが一杯になるほど書き込まれていて気づきが沢山あったようだ。

(感想)

地震の再現映像だとわかっていただけとても怖かった。阪神淡路大震災のような地震だと物が飛んでくると知った。備えをするように家族と話したい。

人と防災未来センター・神戸港震災メモリアルパーク 研修

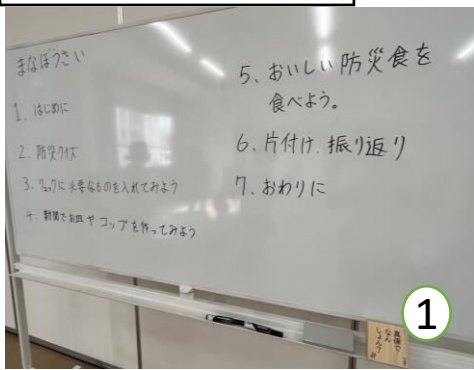


3日目

コロナ感染が急激な拡大する中、倉敷市消防局からの救命救急講座に派遣されなくなり、講師でもある「応急手当普及員:笑顔プロジェクト上氏」から心肺蘇生・AEDの使い方・三角布をたたんで包帯にして応急手当ができる方法や、物干し竿と毛布で担架を作り人を運べるなど体験した。民間救急車両の見学をして、防災食(水を加えておにぎり、具沢山豚汁か煮込みハンバーグを選び食べて、宿題だった防災クイズを披露しグループ対決で盛り上がり、最後は「くらしきジュニア防災リーダーチャレンジテスト」で学んだことを再確認した。(感想)宿題の防災クイズで、知らないことも楽しく学ぶことができた。

★避難所で困っている人がいたら、声をかけます  
★災害の怖さをみんなに伝えて早く避難します  
★非常食を定期的に見直して災害時に備えます

子どもたちが考えた心得



1

## ①【内容】

防災〇×クイズ

リュックに必要なものを入れてみよう

新聞でお皿とコップを作ろう

美味しい防災食を食べよう

片付け

振り返り

②子どもたちの先輩である、中学3年生のあるメンバーから出題された防災クイズ

〇×クイズなので他の子どもたちの意見に左右されやすいのだが、正解は満点で、何度やっても正解となるなど、迷うことなく解答する様子は防災に対する知識が身についているとも感じられた。

③持ち出し品を考えるゲーム

リュックに自分の「ほっとする安心できるもの」入れたいものを5つ選んだあと、追加で大事だと思うものを3個入れられる。子どもたちは、とても真剣に考え自分にとって必要なものを時間ギリギリまで考えてくれた。選んだ理由もきちんと発表でき、自分事として学ぶことができた。



2



3



4



5

④⑤は新聞紙でお皿をつくる体験をした。難しい所はサポートしてもらいながら食べ物を入れる器ができた。



7

⑥パスタタイプの保存食を自分で水を入れて混ぜて待つ時間に器を作り新聞紙の器を再度使えるように濡れないようビニール袋をかぶせて、そこに出上がったパスタを入れてスプーンで食べた。「これなら水で作っても美味しく食べられるね。」「これは、ちょっと苦手かな」など、試してみて備えるものを選ぶ機会になる事を体験できた。

「まなぼうさい」

地域の子どもたちに防災教室をすることは、いざという時のつながりづくりの視点からとても大切であると思っている。

地域の大人と、日ごろから顔見知りになっている事、手作りの防災教室で、いざという時にも安心して過ごすことができるなど、地域の人と仲良くなるきっかけにもなると考える。



6

### ③【キッズ防災】 3年、5年小学生に向けて防災のお話

10/25

川辺小学校3年生に、川辺復興プロジェクトあるくを作った経緯や、活動の内容を話しました。3年生にも理解できるように「防災おやこ手帳」についても簡単に話した。

1/21

学習発表会

「あるくの始まった時の事、どのようなことをしている人たちなのか」などを、子どもたちが、まとめて保護者に向けて聞いたことや学んだことを、グループ毎で発表していた。



11/18

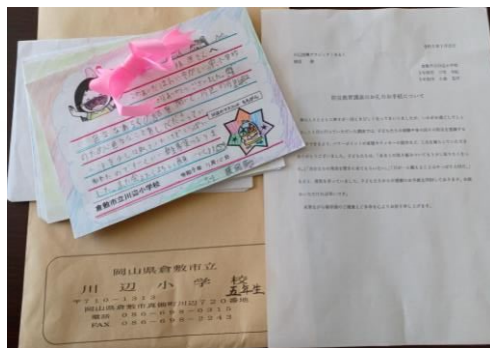
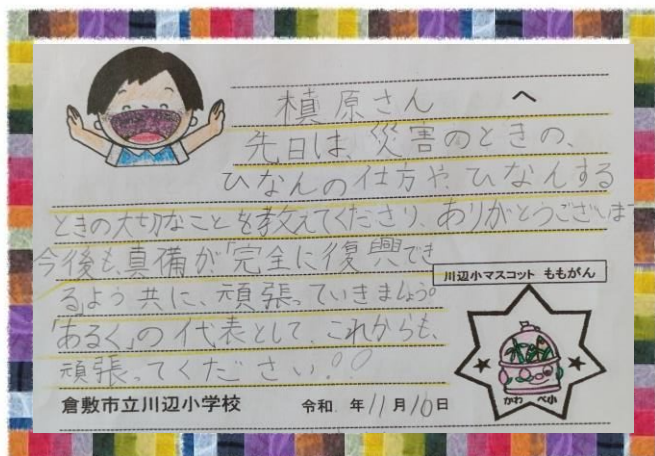
あるくの取組や川辺の防災についてお話しさせていただいた。

1/21(土)学習発表会

その学びを発表する発表会にお招きいただきお礼のお手紙もいただいた。

子どもたちが地域の一員として、すみ良い川辺を目指したい！といった、心強い発表を聞くことができて、感動した。

これからも、子どもたちと共に歩いていける川辺地区でありたいと思う。



5年生の子どもたちが、感想を寄せてくれた。



6/5放送されたNHKスペシャルで「防災おやこ手帳」を紹介していただいて全国からお問い合わせを沢山いただき2023年2月15日現在201件の申し込みがあり(第1弾 5598 第2弾 5565)発送している。その他講演等でも配布し、累計配布数は39724冊となった。今回の特徴は、家族で使用するというより、地域の防災研修で使うとか、地域のイベントで配りたいなど数もまとまった量での申し込みが多くある。

また、学校の授業で使うなどの問い合わせも多く来ている。県内は講演依頼を受ける度に配布するなどに対応することが多く、近くだからと取りに来られることも多くある。倉敷市内の女性消防隊での集会や倉敷市内の地区全体に配布希望など広がりが見られることは身近な所にも伝わっていることなので、地道な活動を続けていきたい。

届ける中で、「メディアを通して全国の学校の防災教育に活かして欲しい。水害で無くなる人ゼロに向けた活動頑張ってください」など感想や温かい応援のメッセージをいただいている。

### 防災おやこ手帳を使って乳幼児を持つ親子に出前講座

6/15 12/14【スマイルプログラム およこ防災】

子育て世代のご家族、子供たち、プレママさん、地域の方の居場所づくりをしている「特定非営利活動法人まんなか」さん主催の会のご依頼で、赤ちゃんママさんに、平成30年西日本豪雨災害の経験をもとに、子どもと一緒に避難や備えについてお話をした。

ポイントは、「日頃の生活に ちょこっと防災の視点をプラス」赤ちゃんとの生活は、楽しくも忙しい。でも、その可愛い子どもを守るために考えないといけないことも多くあること。いつもの生活の延長線上に防災の視点もおいていくことを大切にしてほしいと伝えた。



7/4.2/9【赤ちゃんが来た！BPプログラム・およこ防災】

まびいきプラザ開催事業に「防災おやこ手帳」の内容を基に防災の備えについて話をした。

- ・自分の住んでいるところの災害リスクについて知っておく
- ・お友達・つながりを大切にする
- ・避難の場所やタイミングを考えるなど、日頃の生活の中に備えのヒントがあることを伝えた。

【大阪府泉佐野市のハザードマップに防災おやこ手帳のポイントの掲載依頼】

防災おやこ手帳の「マイ避難先」「避難スイッチ」「持って行くもの」のポイントを掲載したいとの依頼を受けた。引用や転載ではなく、西日本豪雨災害の体験をもとにして、市としてハザードマップに掲載したいポイントをインタビュー形式で掲載することになった。

いずれも、オンラインで打ち合わせをし、内容をすり合わせした。来年度早々完成の後泉佐野市全戸に配布予定となる。

他にも、独自の地域向けの防災冊子に一部引用、掲載の依頼があったが「防災おやこ手帳」を実際に手に取って家族で話し合うきっかけにしてほしいとの思いを伝えている。



#### ④川辺地区や当団体のノウハウを活かした防災啓発や防災意識の向上につながる事業

### 10/19 【防災展示準備】



今年度は、「防災展示」の依頼が増えてきたことから、今までの活動をパネルにしたり、手作りの防災啓発展示として掲示できるものを新たに製作することにした。

日頃の生活の延長線上に「備え」について考えてもらえるように製作した。身近な食品ストックや冷蔵庫の中にも備えとなる食品がある事など、模型を作って展示し考えてもらうというもの。

ローリングストックの考え方を取り入れること。  
いざという時には、避難の環境の変化などにより、食欲が落ちたり、非常食が食べられないことがある。日頃食べなれたものを常備しておくことや、お菓子などの甘いものも「ほっとできる」アイテムになる事など、話のきっかけになるようにわかりやすい展示物を考えた。

### 10/22 【いきいきプラザ防災展示】

新しく非常持ち出し品を考えるオリジナルツールの展示を作成した。

当日は、小さな子どもさん連れのご家族が来場されていたので、小さな子どもたちは持ち出し品の展示を触ってみて、大人たちにはその間に、あるくのスタッフから日頃の備えについてお話をした。



### 10/29 【鳥取・こくみん共済さんの防災イベントで講演】

真備の災害でもこくみん共済さんと生協さんには大変お世話になっており、防災の取組にも力を入れておられ、イベントのみならず、子どもさんへの防災教室などもされている。鳥取の皆さまにも災害を自分ごとにしてもらうきっかけとして依頼を受けた。

講演後「とても楽しかったです！備えなきゃとは思っていたけど、思っても出来なかった。でも、今日の話聞いて、やる気がわいてきました！」と感想をもらい、私たちの活動、防災への取り組みを伝える機会となった。



←講演の中で、「防災クイズ」をしている、あるく最年少メンバーと代表が防災啓発に向けたお話をしている

↓ 活動をまとめたパネル  
食品ストックの模型展示



## 2/23 防災展示・防災講演会参加 「地域防災リーダー育成研修会」やってみよう！自主防災活動

### 《防災展示》

倉敷市内の各自主防災会・防災士「防災活動の展示」として、西日本豪雨災害から生まれた活動の紹介＝パネル展示

パネルディスカッション「地域防災における女性の活躍について」パネラーの一人として榎原代表登壇した。

参加者の多くは、各地域で防災士、自主防災組織のリーダーとして活動している人であった。何れも、それぞれの地域での活動に対し困難や課題をかかえている人が多く、真剣にパネル展示を見て、質問をされていた。特に、地域住民を巻き込む方法や防災意識をどのようにしたら上がるのか？「黄色いタスキ導入についてや安否確認の方法」に対する質問が多くあった。

### 《パネルディスカッション》

困り事が地域を強くしていく。困り事や同じ課題であれば、同じ立場や思いで、解決に向けて活動を目指すことができる。

それには、日頃のつながりが大事で、声をかけ合えるまちづくりをしていく必要がある。

活動に対し「できることをできる人が動ける体制をつくる事」

やりたいことや自分が得意な事は、できるだけ声に出して活動の

きっかけづくりをするなど理解者を増やすことも大事なのではないかなと思う。

女性目線ではありながら、それぞれの世代やジェンダーを尊重した活動をしていく必要があるのではないかなと思う。

など、お互いの立場を通してディスカッションされた内容となった。

### 《パネル展示》

今後の活動においても、今までの活動をまとめたことを必要な場面で活用し、体験が他地区の防災意識の向上につながるのであれば利用していきたい。

2月23日(木・祝) ライフパーク倉敷  
防災資料展示/視聴覚ホール  
1000~1500

防災活動の紹介  
倉敷市内の各自主防災会、防災士「防災活動の展示」  
防災活動の紹介  
防災活動の紹介  
防災活動の紹介

防災情報の展示・紹介  
JA福井の防災情報  
倉敷市防災士会  
倉敷市防災士会  
倉敷市防災士会

防災用品の展示・紹介  
JA福井の防災用品  
倉敷市防災士会  
倉敷市防災士会

その他、防災資料を多数展示・配布します！  
ぜひお来場ください。

